

クスノキ、カゴガシ、ヤマモモ、シイ、サクラなどで、生木、枯木を問わず観察された。しかも、この時期に観察した例では、一つの隠れ場所に pair であることが多く、1本の木で4 pair 確認した例もある。しかも、そのうちの1 pair を採集しても、翌日には再び元の数に戻っていることが多く、この頃の行動範囲は比較的広いものと推測される。

また、夜間の観察例からも、地上に降りて広く歩き回ることを確認している。

以上がこれまで行なった観察のあらましである。なお、本稿を草するに当たり、適切な御助言をいただいた神戸大学農学部の奥谷禎一教授、貴重な資料を快よくお貸し下さった堀田久氏に厚くお礼申し上げます。

(1973. 11. 20)

クロモンハイイロノメイガ淡路に産す

1961年5月16日と1973年7月27日に南淡町阿万に於て、クロモンハイイロノメイガ *Heterocnephes apicipicta* Inoue を各1頭採集した。(登日邦明氏同定)

登日氏の私信によれば、同種の既産地としては、千葉県清澄山、伊豆半島大滝温泉、高知県足摺岬、北九州市市ノ瀬 皿倉山 奥畑、鹿児島県霧島山などで、希な種とのことである。

末筆ながら、同定並に文献調査を頂いた登日氏に深謝の意を表する。(藤平 明)

淡路島のタムシ2種

種

筆者は1972年5月28日に、淡路島でタムシを2頭採集したので報告する。

1. マルガタチビタムシ *Trachys oviformis* Y. Kurosawa
1 ex. 南淡町福良
2. クズノチビタムシ *Trachys auricollis* E. Saunders
4 exs. 南淡町福良

なお、マルガタチビタムシは、これまでに兵庫県では多紀郡篠山町において記録されただけである。

(辻 啓介)